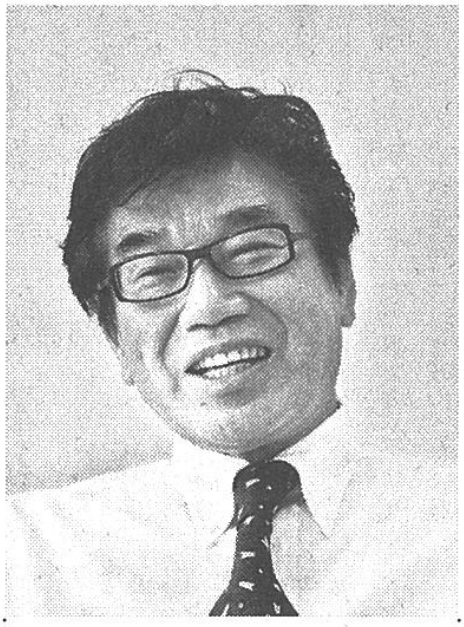
日刊建設工業新聞（2014年10月1日付3面掲載）

【オリエンタルコンサルタンツ・インドネシア社長　郡司勇氏

環境変化に柔軟対応　自立型経営確立急ぐ】

Key Person



オリエンタルコンサルタンツ・インドネシア社長

郡司（ぐんじ）　勇（いさむ）氏

環境変化に柔軟対応 自立型経営確立急ぐ

オリエンタルコンサルタンツの海外部門を分社化した新会社、オリエンタルコンサルタンツグローバルが1日付で始動する。同社の海外子会社として7月に設立された「オリエンタルコンサルタンツ・インドネシア」も10月中には営業活動を本格的に開始。成長著しい東南アジアの新たな拠点として、現地に根差した事業展開を狙う。

「政府開発援助（ＯＤＡ）に依存するビジネスモデルから脱却するのが、海外事業に対するＡＣＫグループの基本構想。市場環境の変化に柔軟に対応し、一日も早く自立型経営の確立を目指したい」

現地法人を軌道に乗せるためのポイントは「優秀な人材をローカルで確保し、育てていく道筋を付けること」と強調する。世界４位の人口を抱え、１万３０００を超える島々で国土を形成するインドネシア。「オリエンタルコンサルタンツの強みである鉄道など交通分野の経験と知識を生かし、現地に根付いた仕事ができるかどうかがカギ」だとし、「優秀な人材をつなぎ止めるためにもコンスタントに仕事を受注し続ける必要がある」と語る。３年で単年度黒字、５年で累積赤字を解消するという目標を設定し、果敢に市場開拓に取り組む覚悟だ。

１９７５年に大学を卒業した後、建設コンサルタント業界に身を投じ、海外畑一筋に歩んできた。40年余りの経験から学んだのは「言葉の壁を乗り越える大切さ」。民族や宗教、生活習慣が異なる環境の中で存在感を発揮するには「適材適所の人員配置と、人を育てる意識を持つことが何よりも重要だ」と力を込める。